

ベーシックコース

主担当：主任研究員 原田 賢治

	5月28日(月)	5月29日(火)	5月30日(水)	5月31日(木)	6月1日(金)
9:30-10:45 1限		リスクコミュニケーション概論 関澤 純 徳島大学総合科学部教授 ・防災対策策定に関して平常時から住民とコミュニケーションをとる考え方を学ぶ	災害をもたらす自然現象の理解(風水害) 中川一 京都大学防災研究所教授 ・風水害の発生過程とその対応方法を理解する	災害をもたらす自然現象の理解(地震・津波) 原田賢治 主任研究員 ・地震及び津波の発生メカニズムを理解する	被災社会の様相 松原一郎 関西大学社会学部教授 ・被災した社会の一般的な特性について様々な災害事例を通じて理解する
11:00-12:15 2限	(10:50~11:15) 開講式 (11:15~12:30) オリエンテーション 原田賢治 主任研究員	ライフライン被害の様相 平山修久 主任研究員 ・阪神・淡路大震災におけるライフラインの被害様相と復旧過程、市民生活への影響を知る	危機管理総論 橋本信之 関西学院大学法学部教授 ・危機管理の基礎的な考え方と実務上のとらえ方を理解する	災害をもたらす自然現象の理解(土砂災害) 沖村孝 上級研究員 ・土砂災害の危険性の性質と対策事例を学ぶ	災害過程論 木村玲欧 名古屋大学大学院環境学研究科地震火山・防災研究センター 助教 ・地震発生後に生じる時間フレームごとの現象と課題を学ぶ
13:30-14:45 3限	センター展示施設見学ワークショップ①:施設見学 主任研究員 ・市民の視点から行政は何を行うべきかを施設見学・ワークショップを通じて学ぶ	阪神・淡路大震災における行政の対応 松原浩二 兵庫県広報課長(防災計画課参事兼務) 片瀬範雄 株式会社パスコ神戸支店技師長(元神戸市中央区長) 厚見和範 西宮市防災対策グループ長 ・震災発生直後の対応状況と出てきた課題を学ぶ ・都道府県と市町村災害対応の違いを理解する ・討論を通じて災害発生後に対応しなければならない課題と対応の考え方の理解を深める	都市の復興①概論 小林郁雄 上級研究員 ・阪神・淡路大震災の被災地の復興過程と様々な取り組みを学ぶ	地域防災計画論 永松伸吾 防災科学技術研究所防災システム研究センター研究員 ・地域防災計画の法的な位置づけとそれを補完するプログラム、活用方策の事例を学ぶ	センター展示施設見学ワークショップ②:全体討論会 主任研究員 ・市民の視点から行政は何を行うべきかをワークショップを通じて学ぶ ・参加者との意見交換から、立場による考え方の違いを学ぶ
15:15-16:30 4限	災害関連法体系基礎 山崎栄一 大分大学教育福祉科学部准教授 ・災害対応にあたって使える権限・財源を知る ・災害関連法体系の全体像と守備範囲を知る		都市の復興②巡検 小林郁雄 上級研究員 ・被災地の取り組み、まちづくりの過程について具体的な事例を学ぶ ・現地見学を通じて学習するとともに、意見交換を行う	災害発生の現象理解(建物被害・火災) 堀江啓 インターリスク総研主任研究員 越山健治 研究主幹 ・建物被害及び火災の発生メカニズムを理解する	(16:15~17:00) レポートタイム (17:00~17:15) 閉講式

マネジメントコース: エキスパート(EA)

主担当: 主任研究員 照本 清峰

	6月4日(月)	6月5日(火)	6月6日(水)	6月7日(木)	6月8日(金)
9:30 10:45 1限		災害対応演習 近藤民代 主任研究員 危機発生時の具体的な課題をもとに、災害対応の考え方について学ぶ	災害対応概論(対応業務総論) 近藤伸也 主任研究員 ・防災部局の災害発生時の業務、阪神・淡路大震災における災害対応業務の時間的流れについて学ぶ	国の災害対応 上田健 内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(総括担当) 中地弘幸 総務省消防庁防災課震災対策専門官 片桐庄司 厚生労働省社会・援護局総務課災害救助・救援対策室災害救助専門官 ・我が国の防災体制、内閣府、消防庁の役割、災害救助法等の理解を深める	市民社会ワークショップ 立木茂雄 上級研究員 山本康史 ハローボランティア・ネットワークみえ代表 平野昌 ハローボランティア・ネットワークみえ事務局(三重県政策部東紀州対策局副室長) ・災害時の被災社会の対応において、市民の力の特徴や行政との関係のあり方について理解を深める
11:00 12:15 2限	(10:50~11:15) 開講式 (11:15~12:30) オリエンテーション 照本清峰 主任研究員	危機対応時の組織論(組織・ロジスティクス) 小寺修司 陸上自衛隊中部方面總監部 ・ロジスティクスの役割とその重要性、後方支援・業務交代などの必要性について学ぶ	災害対応概論(初動期) 室崎益輝 上級研究員 ・初動対応時の対応と課題について理解を深める		
13:30 14:45 3限	災害事例 ワークショップ 照本清峰 主任研究員 ・阪神・淡路大震災を事例にワークショップを行い、災害対応の考え方の理解を深める	危機対応時の組織論(情報システム) 浦川豪 京大大学生存基盤科学研究ユニット助手 ・災害発生直後の被害予測技術、システム設計における業務分析の考え方を学ぶ	防災計画・マニュアルの考え方 目黒公郎 上級研究員 ・災害対応に活かすことができるマニュアルの考え方について学ぶ	災害対応概論(応急期) 越山健治 研究主幹 ・応急対応期の対応と課題について理解を深める	災害対応概論(復旧・復興期) 中林一樹 上級研究員 ・復旧・復興期の対応と課題について学ぶ
15:15 16:30 4限		災害対応各論(医療活動) 山本保博 上級研究員 ・災害現場の医療活動体制について理解を深める	危機対応時の組織論(トップの対応) 遠藤勝裕 日本証券代行株式会社 取締役相談役 ・阪神・淡路大震災でのトップの災害対応、危機管理に対する心得を学ぶ	危機対応時の組織論(情報提供・報道機関対応) 安富信 読売新聞社大阪本社 編集委員 川西勝 研究調査員 ・災害時の情報提供方法、報道機関対応の課題を学ぶ	全体討論会 主任研究員 ・災害対応に関する課題について意見交換を行うことにより、考え方の理解を深める (16:15~17:00) レポートタイム (17:00~17:15) 閉講式

マネジメントコース:エクスパート(EB)

主担当: 主任研究員 平山 修久

	6月11日(月)	6月12日(火)	6月13日(水)	6月14日(木)	6月15日(金)
(9:30~10:45) 1限		都市巨大災害論 河田恵昭 人と防災未来センター長 ・事例を通じて災害による被害過程の全体像について理解する	災害情報共有手法 東田光裕 西日本電信電話株式会社 兵庫支店主査 ・情報共有の具体的方法について	阪神・淡路大震災の復興まちづくりにおける法制度上の課題 西野百合子 弁護士 安崎義清 司法書士 (阪神・淡路まちづくり支援機構) ・阪神・淡路大震災における法制度適用の実態とその問題、課題について	被害想定を活用方法 照本清峰 主任研究員 ・被害予測技術の基礎的な考え方と災害発生後に生じる被害程度を想定する考え方の理解を深める
(11:00~12:15) 2限	(10:50~11:15) 開講式 (11:15~12:30) オリエンテーション 平山修久 主任研究員	災害対応従事者の業務管理論 岩井圭司 兵庫教育大学大学院学校教育研究科教授 ・災害対応業務を行ううえでのマインドケアについて	業務継続計画論 丸谷浩明 京都大学経済研究所教授 ・災害時において対応することになる各公共機関の主な役割と概要、BCMの考え方について	非公共機関の災害対応 五辻活 パルスシステム生活共同組合 連合会研究員 水島重光 日本生活協同組合連合会 震災担当世話人 ・災害時における公共機関以外の組織との連携について	災害の対応事例と教訓 細貝和司 新潟県防災局危機対策課 課長補佐 足田仁司 豊岡市市民生活部生活環境課 課長 主任研究員 ・災害事例をもとに、災害対応の課題と対応方法の考え方について理解を深める ・事例をもとに意見交換を行い、災害対応のあり方について理解を深める
(13:30~14:45) 3限	標準的な災害対応システム論 林春男 上級研究員 ・災害対応における標準的業務手順や対応手法について	災害対応データベースを用いた演習 吉川肇子 慶応義塾大学商学部 准教授 ・災害対応時における優先順位付け、阪神・淡路大震災の事例を通して災害対応業務として構築する方法について	災害対策本部の空間構成設計演習 牧紀男 京都大学防災研究所准教授 元谷豊 特定非営利活動法人環境・災害対策研究所主任研究員 ・災害対策本部のレイアウト方法について学習し、実際にレイアウトを作成する	阪神・淡路大震災における初動体制とあり方 吉井博明 東京経済大学コミュニケーション学部教授 ・阪神・淡路大震災時の情報提供のあり方、情報システムの課題について	
(15:15~16:30) 4限	被害認定業務 堀江啓 (株)インターリスク総研 主任研究員 ・被害認定業務を通して阪神淡路以降の知見が最近の災害でどのように活かされているかについて			行政業務の評価手法 山谷清志 同志社大学政策学部教授 ・行政評価の手法と考え方、防災計画等に基づく事業の評価手法について	
					(16:15~17:00) レポートタイム (17:00~17:15) 閉講式